

令和5年度

第1回 大垣市子育て支援会議 会議録

令和5年度 第1回 大垣市子育て支援会議 会議録

日 時 令和5年8月9日（水）
13：30～15：00
場 所 市役所8階 大会議室

1. 会議次第

(1) 委員の委嘱について

(2) 会長及び副会長の選出について

(3) 議題

大垣市第三次子育て支援計画の令和4年度事業実績及び
令和5年度実施計画について

(4) 報告事項

- ① 大垣市におけるこどもの居場所づくりについて
- ② 子育て世帯物価高騰対策応援金等の支給について
- ③ 公立幼稚園の廃園について
- ④ 保育士等サポーターの設置について

2. 出欠席等の状況

(1) 出席委員：12名（敬称略）

区分	氏名	役職等
学識経験者	光井 恵子	大垣女子短期大学幼児教育学科 学科長
	藤岡 恭子	岐阜協立大学 経済学部 教授
子育てに関し優れた識見を有する者	井上 直美	大垣市民生・児童委員協議会 主任児童委員会 会長
	中山 健一郎	大垣市小中学校長会 川並小学校 校長
	平野 宏司	大垣私立幼稚園連合会 キートスガーデン幼稚園 園長
	津汲 紀子	大垣民間保育園連合会 大垣ひかり保育園 園長
	松村 麻里	大垣市PTA連合会 副会長
その他市長が適当と認める者	三代 広子	大垣市子ども会育成連絡協議会 会長
	沼口 諭	大垣市医師会 会長
公募委員	堀場 貴仁	連合岐阜西濃地域協議会 事務局長
	西脇 諭美	
	松好 和子	

(2) 欠席委員：3名（敬称略）

区分	氏名	役職等
子育てに関し優れた識見を有する者	大橋 奈麻輝	社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会 事務局長
	安田 典子	特定非営利活動法人 くすくす 理事長
その他市長が適当と認める者	三輪 正直	大垣商工会議所 専務理事

(3) 事務局：15名

- 毛利 正人（こども未来部長）
- 浅井 靖弘（子育て支援課長）
- 川崎 彰浩（保育課長）
- 林 美智代（保育課対策官）
- 永井 康（子育て総合支援センター所長）
- 高木 康洋（子育て支援課主幹）
- 内山 良（子育て支援課主幹）
- 渡邊 英佑（子育て支援課主幹）
- 高木 明弘（保育課主幹）
- 伊藤 元之（まちづくり推進課男女共同参画推進室主幹）
- 御田村 真理（保健センター課長）
- 林 のり子（学校教育課主幹）
- 田島 善之（社会教育スポーツ課主幹）
- 安藤 貴史（子育て支援課主事）
- 服部 夕里子（子育て支援課主事）

(4) 傍聴者 0名

3. 議事

- (1) 委員の委嘱について
任期満了による委員改選について報告
- (2) 会長及び副会長の選出について
会長に光井恵子委員、副会長に藤岡恭子委員が就任することで承諾された。

- (3) 議題の審議
大垣市第三次子育て支援計画の令和4年度事業実績及び
令和5年度実施計画について

資料No. 1-1 大垣市第三次子育て支援計画の令和4年度事業実績及び令和5年度 実施計画（案）について
資料No. 1-2 大垣市第三次子育て支援計画 計画事業一覧

事務局 資料説明

会 長 意見、質問等があれば挙手の上、発言願いたい。

I委員 病児保育についてお尋ねしたい。計画No.107の「病児保育の実施（病児保育室の開設）」については、令和4年度実績値が43人であるのに対し、計画No.108の「病児保育の実施（広域利用）」では、令和4年度実績値が190人となっている。これは、大垣市内で病児保育を利用せず、市外で、例えば勤め先の近くの病児保育を利用する人が多いという解釈でよろしいか。

事務局 そのとおりである。7市町と提携しており、各市町の病児保育を行っている施設を利用されている。勤め先の近辺にある病児保育を利用される方もいると思われる。

会 長 その他、意見等はないか。

委 員 （発言無し）

会 長 「議題1：大垣市第三次子育て支援計画の令和4年度事業実績及び令和5年度実施計画について」は「承認」としてよろしいか。

委 員 （異議なし）

会 長 議題1は、「原案どおり承認」とする。

(4) 報告事項

- ① 大垣市におけるこどもの居場所づくりについて
- ② 子育て世帯物価高騰対策応援金等の支給について
- ③ 公立幼稚園の廃園について
- ④ 保育士等サポーターの設置について

資料No.2 大垣市におけるこどもの居場所づくりについて

資料No.3 子育て世帯物価高騰対策応援金等の支給について

資料No.4 公立幼稚園の廃園について

資料No.5 保育士等サポーターの設置について

事務局 資料説明

会 長 意見、質問等があれば挙手の上、発言願いたい。

H委員 こどもの居場所づくりについてお尋ねしたい。子ども会では現在、運営やイベントの実施に関して、市から助成金をいただいているが、そのイベント等とは別に、子ども食堂の実施のために市から助成金を出してほしいといった要望が子ども会から出ているのか。

事務局 補助金については、子ども会活動といった自治会の活動に限らず、市民活動団体も含めたこども食堂、こどもの居場所づくりを実施する団体に対して補助を出すものである。子ども会から子ども食堂等の補助金について要望があったわけではない。

H委員 それでは資料No.2の「子ども会活動」を「子ども活動」に修正いただきたい。

L委員 こどもの居場所づくりについて、年齢を分けて検討しているとお話があったが、ぜひ一連の流れとして、繋がっているものとして考えていただきたい。

何年か前に保育所保育指針が変わり、こども主体の考え方で保育するようになってきているが、これは、小学生、中学生になってからでは遅いから、まだこどもが小さいうちから、主体的に考えて行動する力を育てることが必要とされたために変わっている。

小中学生への学習支援はとても大切なことだと思うが、勉強だけしているこどもが、将来、人のことを考えて行動できる大人になるかと問われたらそれは違うと感じていて、子ども食堂の活動の中で、普段いうことを聞かない4, 5歳児が、1, 2歳児がうろうろしていると急にお兄さんお姉さんになって世話を焼いていたりすることがある。学習支援も大切だが、コミュニケーションへの支援も必要ではないか。また、今のこどもたちはコミュニケーション不足のまま社会に出るので、例えば頑張って勉強して保育士になっても、人とのコミュニケーションに慣れていなくて、就職して潰れてしまったりといったことがある。

物価高騰対策応援金等の支給について、貧困で暮らしに困っていたりとか、ぎりぎりの生活をしている家庭にとってとても助かることだと思う。ただ、お金に多少余裕のある家庭では、こどものためではなく、お母さんたちの遊ぶお金になってしまったり、こどもの塾に充てたりしている現状があるので、実際どんな使われ方をしているのか調査していただきたい。

こどもの笑顔を作るために何が必要なのか考えていくと、子育てをする人、親や地域の人や、行政の側の間人も、子育てについて考えることだったり、そもそも人と人とのコミュニケーション、触れ合いは大切なことなんだと認識することだと思う。そうして家族の時間が増えて、給付金も塾やお母さんたちのお金としてではなく、家族みんなで過ごすためのお金として使われると良いなと感じている。

事務局 こどもの居場所づくりについて、学校をモデルに話をさせていただいたが、学校という施設を借りて、スタッフは地域の人や保護者の方の協力のもとで、地域が一体となって子育てして欲しいという思いでいる。社会全体で、未来を担う子どもたちを育む機運を高め、こどもたちがいろんな人と関わって過ごせるような居場所を作っていきたいと考えている。こんな場所があるからそこにこどもを預けて親は自由に過ごす、ということではなく、もちろん自分でこどもを見るのが困難な家庭については行政が支援する必要がある

が、こどもたちが主体的になって遊び、過ごせる居場所を作っていきたいと考えている。

E委員 保育士等サポーターについて、保育士の離職防止や職場定着支援ということで、非常によいと感じているが、2点お尋ねしたい。

まず1点目に、離職の原因となっているところで、一つに職場の環境というのがあると思う。園長先生や主任の先生を中心に、雰囲気の良い職場づくりが必要と感じているが、園長先生や主任の先生への研修は実施しているのか。

事務局 おっしゃる通り職場の環境づくりについては大切だと認識しており、園長先生、主任の先生へ機会をとらえて雰囲気の良い職場環境整備についてお願いしているところである。また、初任者研修ということで、園長、主任になられた先生への研修を実施している。

E委員 保育士、幼稚園教諭へのサポートは非常に重要で、県でも力を入れて実施している。大垣市では過去5年間の自己都合退職者54人で、うち勤続5年以下の割合が57.4%とのことだが、保育士等サポーターは2年目以上の職員が対象とのことで、新規採用職員へはこの制度の告知であったり、利用は予定しているか。

事務局 保育士等サポーターについて、園長経験者に委嘱しているが、それとは別に人事課のほうで、臨床心理士等によるメンタルヘルス事業を実施している。臨床心理士への相談までは必要ないが、少し辛いなど感じている職員を掘り起こし、サポートすることを目的に保育士等サポーターを設置した。

新規採用職員については、一人一人に指導員が付くため、そちらで対応する形をとっており、サポートが手薄になる2年目から5年目の職員を対象に、研修や相談会を実施することを考えている。

E委員 一対一の相談体制ということではなく、一対多の形の研修を実施されるということか。

事務局 感染症の影響もあり、この3年ほどで採用された職員は同期であっても関わる機会が少なく、横の連携が薄い。そのためまずは同じ年数の職員へ研修を行う形で、横のつながりを作る機会を作りつつ、不安感のある職員へのサポートも進めていきたいと考えている。

D委員 放課後児童クラブと放課後子供教室の一体的な実施というところで、現在のどの程度検討が進んでいるのか。

事務局 放課後児童クラブは大垣市の留守家庭児童教室を指している。放課後子供教室は、保護者の就労状況を問わず、参加したい子が自由に参加できる活動

である。放課後の流れとして、こどもたちが自由に参加できる放課後子供教室の活動があって、その後に残る子は放課後児童クラブへ移るような形で実施出来ないかという思いで、実施できるか否か、大垣市にとってどのような形での実施がよいのか検討している段階である。

D委員 自治会の活動の一環でラジオ体操に参加しているが、こどもたちと一緒に親さんも参加して、親さん同士と一緒にラジオ体操が終わった後も話していたりして、些細なことだがそれが地域の活性化にもつながっていくと感じている。また、夏休みにこどもたちに思い出に残る一日を作ろうということで、こどもたちや親さん、地域の人と一緒に楽しく過ごしていた。こういった活動が地域の活性化につながっていくと感じるとともに、こうした場に出てくることができない親さん、参加したくても出来ない子たちがいて、そういった家庭への支援が難しいが必要と感じた。

事務局 現時点では、ユニバーサル型の居場所というところで、誰でも利用できる居場所について検討しているが、ひきこもりや不登校といった課題を抱えている子への支援というところで、ターゲット型の居場所や支援についても、一人一人にあった支援を考えていきたい。

L委員 大垣市の子育て支援制度について、大垣市ではエンゼルサポーター事業やファミリーサポートセンター事業を実施しているが、市が実施しているため、非常に利用しにくい。提供会員として登録して、依頼会員と面談し登録されていても、例えば赤ちゃんの頃に面談し、それからだいぶ期間が空いてしまうと、面談の時とだいぶ子どもの様子や預かりの間に実施することが変わってくるので、急に依頼されると困ってしまう。

行政の事業であるので、これをします、と取り決めをしないと動くことはできないのはもちろんだと思うが、これが例えば民間であれば、もっと融通の利いた形で実施が出来ると思う。民間や地域の有志が実施する有料の預かりサービスなどに、行政が利用者へキャッシュバックするような形で支援をすることができないか。

事務局 市が実施する事業はやはり民間に比べると自由度が低くなってしまおうという課題がある。その中でファミリーサポートセンター事業は、提供会員と依頼会員の中でやり取りしていただいで実施できる、比較的自由度の高い事業にはなる。この事業はお互いさまの互助の精神からの事業になるが、最近利用料を払っているのだからこれだけのことをやってほしい、と思う依頼会員もいて、あくまで助け合いの制度であると考えているので、制度の趣旨について、周知していきたい。

市の方で利用料を補助するといったことについてはこの場で回答できないが、検討していく。

G委員 小学生も中学生も夏休みに入り、多くの子どもたちが家で留守番をしている。私は子ども食堂を運営しているが、開催すると朝から赤ちゃんから小学生、中学生、高校生、それから70歳くらいになるボランティアさんまでみんなが地域のつながりをもって楽しく過ごしている。

現在市の補助金をいただいて実施していて、いただいているから実施できているが、この先続けていくことを考えると、現在の補助内容では厳しいところがある。実施回数を増やしたり開設時間を長くしたいという思いはあるが、ボランティアでは難しいところがあるので、居場所づくりに取り組む人たちが長く続けていけるような支援を考えていただきたいと思います。

J委員 現在実施している支援や事業について、まだ立ち上げの部分もあるかと思う。子どもが主体、中心となって、子どもが幸せになるようにという観点で動こうとしている段階なのかなと思うので、継続していただいて、経過等見させていただき、またご意見させていただければと思う。

F委員 こどもの居場所づくりのところで、子どもが主体となっていきいきと生活できるというのはとても大切なことだと思う。一方で、子育てにすごく悩んでいる親さんもいて、沈んだ表情で育児をしている環境では、こどももののびと生活することは難しい。こどもの居場所が子どもだけでなく、保護者も悩みを相談できる、共有できるような場所になって、保護者同士も繋がれる場になったらいいなと感じた。

K委員 大垣市の子育て支援はとても充実していると感じている。こどもの居場所にも子どもと参加させてもらう中で、運営されている方から、ボランティアが足りないと聞いて、スタッフとしても参加させていただいた。

小学生までの子育て支援はとても充実していて助かっているが、中学生以上になると急に子育て支援の枠から外れてしまうように感じてしまって、今回、給付金やこどもの居場所づくりなど、18歳まで継続して支援していくといったところはとてもありがたいと感じている。

C委員 現在夏休みということで、私もラジオ体操毎朝行っているが、昔と違い今はお母さんも働いている人が多く、毎日子どもと一緒にいくのが難しい人が多いと思う。そんな中でも、私の住んでいる自治会では昔より子ども会活動をバックアップしてくれていて、応援していただいているなと感じている。

子どもを見守るという点においては、登下校時のおじいちゃん、おばあちゃんたちによる見守りも、毎日やってくださっていて、子どもを地域で見守るということは今後さらに大切になってくるなと感じている。

居場所づくりの話で、学校は働き方改革ということで、地域行事も、学校の関与が少なくなっているように感じている。学校を使ったこどもの居場所について、実際運営に入るのは学校ではなくて地域の人やっていくことが多くなるのかなと思うが、そこは共助ということで、担い手になりうる潜在

的な人材が地域にも眠っていると思うので、そういった人材をどう掘り起こすかということも大事かなと感じた。

B委員 三重県いなべ市の放課後子供教室では、社会教育課と子育て支援課が連携して教室の運営を行っていて、教育長をやられていた方が、放課後子供教室の理事に入られて教育委員会とも連携を密にして実施しておられる。三重県で2番目に男性幼稚園教諭になられた方がプログラム等すべて作られて、その方の人脈でいろいろな人を呼んだりとか、スタッフはほぼボランティアで実施したりと、地域の活性化にもつながる事例で、大垣市もそのような形で進められると良いのかなと感じた。

また、保育士等サポーターについて、園長経験者をサポーターとして任命して進められるということで、とても良い事業だと思う。津市の事例で、再任用の園長先生が巡回して園長指導を行って、そうすることで園の雰囲気も良好にしていくという事例がある。大垣市の保育士等サポーター事業も同じように、保育環境の改善につながっていくといいなと感じた。

会 長 大垣市の子育てが「子育て日本一」として、実態としてもなっていくと思う。

こどもの今が一番大切というところで、私自身子育てをしながら、初めて職場に行った時に、園長経験のある先生から親が心身ともに健康でないと子育てはできない、と言われたことがある。子育てしているといろいろな悩みや壁にぶつかると思うが、まずは親が心身ともに健康でいて、そうすればこどもの笑顔というところにも真摯に向き合っていけるのではないかなと思う。また、親が子育てしていくことの大切さ、大人が学ぶ機会というところも大切と感じた。

こどもは、保育園、小学校、中学校と順に社会に出ていくわけだが、そういった誰もが通う学校、施設で、その管轄を超えて情報共有しながら、こどもが笑顔でいられる支援、そしてこどもを通じた親への支援という形が、地域ぐるみで行っていけると良いと思う。

事務局 次回以降の会議では、大垣市第四次子育て支援計画の策定について、資料等提示させていただき、ご意見頂戴したい。次回会議日程等については改めて連絡させていただく。

本日の会議は以上をもって終了とさせていただきます。